

吹をられたるせんざいなどをとりあつめおこしたてなごするをうらやましげにおしはかりてつきそひたるうしろもをかし

〔枕草子八〕名おそろしき物 はやち

〔相模集〕野わきいみじうたたるひゆるぎのもりはいかゞと人のとひたりしに

ありわぶる身のほどよりは野わきする浅ちが原の露はのどけし

同日

はやちふくまげみののらの草なれやおきてはみだるふせばかたよる

〔千載和歌集四〕百首歌奉ける時秋歌とてよめる

藤原季通朝臣

野分するのべのけしきを見渡せば心なき人あらじと思ふ

〔夫木和歌抄風十九〕貞應三年百首風澳のはやて

爲家

波えらむ澳のはやてやつよからし生田が磯によするともぶね

〔倭名類聚抄風一〕大風 漢書云大風吹兮雲飛揚此間云於保加世

〔類聚名義抄風十〕大風ガホカセ 颶雲物反ガ 颶音調ガ

〔日本書紀二舒明三〕十年七月乙丑大風之折木發屋

〔日本書紀二天武九〕九年八月丙辰大風折木破屋

〔續日本紀二文武〕大寶元年八月甲寅播磨淡路紀伊三國言大風潮漲田園損傷遣使巡監農桑存問百姓

〔續日本紀三文武〕慶雲三年七月己巳太宰府言所部九國三島亢旱大風拔樹損稼遣使巡省因免被災

尤甚者調役

〔續日本紀六元明〕和銅六年十一月辛酉伊賀伊勢尾張參河出羽等國言大風傷秋稼調庸並免但已輸

大風